

～市役所の廊下を明るくきれいに！～

総務局改革推進委員会の挑戦～

総務局改革推進委員会「ROUKAプロジェクト」の協働チャレンジ！
公募の結果、協力企業が決定し、いよいよ実現へ！

- ①廊下を明るくするため、横浜市庁舎の3、4階の廊下を、企業の協力を得て市職員自ら塗装します。
- ②3、4階の廊下の天井照明も、企業の協力により、従来の蛍光灯から蛍光灯型LEDランプへ交換します。

総務局改革推進委員会「ROUKAプロジェクト」、総務局の職員が進める職員参加の環境改善について、公募の結果協力企業が決定し、実施の段階となりました。協力企業、総務局職員の協働作業で、これまでの暗かった市庁舎3階、4階の廊下が、明るくきれいに生まれ変わります！！

- ①市庁舎3、4階の廊下の塗装は
平成22年8月21日(土)、22日(日)8:30～17:30に行います。
- ②廊下の天井照明の交換作業は
平成22年8月8日(日)に行います。

協力企業

塗 装：株式会社塗装職人（横浜市保土ヶ谷区）
LED照明：株式会社シスコ（横浜市金沢区）

詳細は裏面へ！



廊下の塗装と蛍光灯型LEDランプへの変更

天井照明のLED化について

LED (Light Emitting Diode) を利用した照明は、近年多く見かけるようになりました。蛍光灯型のものは、小さなLEDを列状に配置し、それを従来の蛍光管のような形に仕上げたもので、寿命が長く消費電力が少ないといった特徴があります。規格化はまだ途上です。

その蛍光灯型LED照明を導入することとしたのは、消費電力が少ないという点に着目し、現状の消費電力を増やすことなく明るさを向上させるためです。

今回は、見た感じをできるだけ変えない事にも配慮しており、照明器具本体は従来のものをそのまま利用しています。そのため、ランプには、重量や、30,000時間程度の寿命を求めるなど、かなり厳しい条件を付けています。

協力していただいたシスコ(株)の取り扱い三菱化工機(株)の製造する蛍光灯型LEDランプ「LIGHTIER(ライティア)」はその条件をクリアした製品です。

実際に今、廊下をみてみてください。見た感じはほとんど従来の蛍光灯と変わらないと思います。違いは、ランプの上半部分が発光していない点でしょうか。施工後の消費電力も従来以内に収まっており、明るさはほぼ倍になっています。



今回設置した蛍光灯型LEDランプLIGHTIER(ライティア)は、三菱化工機株式会社が製造、販売を株式会社シスコが行っています。見た目はほとんど普通の蛍光灯に見えますが、写真の通り、管の中には小さなLEDがたくさん並んでついています。管はガラスではなくポリカーボネートで、丈夫で安全、消費電力も半分程度です。



- 今回ご協力いただいた企業の方々
- 塗装：株式会社塗装職人(保土ヶ谷区 TEL 045-382-3600)
- 塗料提供：日本ペイント株式会社
- 照明：株式会社シスコ(金沢区 TEL 045-778-1022)
- 照明製造：三菱化工機株式会社
- 照明取扱：株式会社旭商工社(西区 TEL 045-311-1551)



塗装でご協力いただいた、株式会社塗装職人さん。このユニークな絵のチラシをご覧になった方もいるかもしれません。材料・道具の提供、塗装の技術指導から構え、実際のフォローなど様々なお手伝いをしていただきました。でも、やっぱりプロは違います。ローラーやハケの使い方、マスキングなど手際よく進めるさまは、見事でした。塗料は日本ペイント株式会社からも、ご提供いただきました。

廊下壁面、天井の塗装について

廊下の塗装については、主な部分をボランティアで行うことを想定していたため、「本当にうまくできるのか?」「失敗したらどうしよう」と不安一杯でした。でも、実際に材料を提供し、指導してくれた(株)塗装職人の方々のおかげで、とても綺麗に仕上がったと思っています。いかがでしょうか?

使う道具や手順、注意点の説明などわかりやすく、すぐコツはつかめました。特に大変だったのは下地調整とマスキング作業。塗料がついたら困るところに、テープや専用のビニールなどを使って覆っていく作業は大変でした。また、塗料の乗りをよくするための下地調整も、ホコリを取ったり、ナイロンたわしで表面を荒らしたりと苦労しました。

でも、塗装作業も、みるのとやるのでは大違い。実はとても力が必要で、特に天井は大変でした。ずいぶん塗料も服についてしまいましたし、普段使わない筋肉を使ったせいか翌日は筋肉痛が...。でも、参加者にとっては印象深い作業になったと思います。(職人の方々からみたら、きつとつこみどころ満載だったかな...)。最後にマスキングを取り払って綺麗になった廊下のまぶしいこと。こんなに綺麗になるんだと参加者一同素直に感動しました。

今回主に利用した日本ペイント(株)の「ケンエース」という塗料(一部を提供していただきました)は、水性でにおいもほとんどなく、素人にもとても扱いやすいものでした。翌日からの業務にも全く支障ありませんでした。

ROUKA-Works みんなのチカラでこんなに明るく!

LED照明工事

既存の機器を活用し、生まれ変わりました



衛生をきれいに取り外すと

最後に新しくチェック

廊下塗装作業

①- まずは講習

マスクという養生専用のビニールの張り方の実演



まずは養生作業。仕上がりの決めてです

本日の作業「よろしくお祈りします」

こちらはハンドパッド(ナイロンたわし)による下地調整

②- 早速下準備

それぞれ、気持ちは「職人」になって、塗装作業を行いました。全員素人ですが、一生懸命です。結果はいかがでしょう?

塗装のやり方、コツを教わります。真剣

③- いよいよ塗装!

塗って...

塗って...

塗って...

塗って...

塗って...

塗って...

塗って...



ROUKA Project Report

「ROUKA Project」ってなんだ

■ 暗い廊下を何とかしたい ■ ■ ■ ■

「ROUKA Project」この聞き慣れない名刺をみて、どう思われるでしょうか？実はこれを読んでいる方が「今」いる「廊下」を題材に進められたユニークな、取り組みのことなのです。

ここでは、それがどのように進められたかをお伝えし、今後の活動へのヒントを提供すると共に、ご協力いただいた方への感謝をお伝えしたいと思います。

現在の横浜市役所の庁舎は、村野藤吾が設計し、1959年（昭和34年）に竣工したものです。庁舎の耐震補強工事も終了し、外観はほぼ従来どおりの形。内装も全体に落ち着いたものとなっており、ホールなどは、当時の雰囲気そのままです。各階は中心の廊下の両側に執務室が配置される形でレイアウトされているので、廊下には外光を取り入れるための窓がありません。そのため、廊下は、人工的な照明に頼ることになります。



■ 節約は実現できたけれども ■ ■ ■ ■

この廊下、近年は節約のため、天井の照明灯の数を減らしてしまっていました。また、メンテナンスも必要最低限とし、全面的な塗装などは実施を先送りしてしまっていました。それが毎日利用する廊下を「いつも薄暗く」「なんだか元気が出ない」空間とする原因ともなっていました。

それになれてしまってもいたのですが、ある日、もしもしたら、この状況を改善することで、仕事の「やる気」が向上するのではないかと気がつきました。

きっかけは、ある日耳にした職員の話でした。「トイレ行くとテンションあがるわぁ！」それは、ちょうど配管などが老朽化した水回りの工事が終わったあとのこと。確かに、とても綺麗で明るくなったトイレでした。人の気持ちって不思議なもので、過ごしている空間の一部でも快適になると、なんかワクワクするものなんですね。

「！」じゃあ、少しでも、執務している所を綺麗にできないか？と考えたのが、この「ROUKA Project」のきっかけでした。手をつけるなら、まず、毎日通っている廊下からと考えました。

■ 総務局改革推進委員会でのプロジェクト発足 ■ ■ ■ ■

しかし、現在は厳しい財政状況に対応するために経費を削減している状況です。単純に「廊下が暗いので何とかお金をください、綺麗にしてください」ではうまくいかないだろうとわかっていました。そこで「廊下を明るくすること」「その取り組みによって職員のモチベーションを向上させること」そしてさらに「経費をかせぎながらそれを実現すること」を目標にして、総務局の改革推進委員会のプロジェクトとして、進めてみる事にしました。

局内でそれに賛同する職員を募集した結果、8名のメンバーが集まりました。本格的に取り組みを始めたのが2009年（平成21年度）9月頃、実際に工事などを行ったのが2010年8月ですから、足かけ2年、まる1年間のプロジェクトです。2010年には、新たに2名のメンバーを加え、延べ10名が活動することになりました。

「ROUKA Project」では、最終的に壁面の塗装と照明のLED化を行いました。最初からそれが決まっていたわけではありません。最初は「現在の清掃業務の回数を減らし、自分たちで行うことで経費を捻出できないか」とか「市庁舎の廊下をチャリティーのように利用し、そのあと、現状復帰という形で塗装をできないか」といったアイデアがありましたが、実はそれによって生み出される経費がわずかであったり、利用方法として難しいといったことなどから、いずれも実現に至りませんでした。思い返すとプラン立案にはとても苦労しました。

■ こうすればできるんじゃないか！ ■ ■ ■ ■

そこで注目したのが「広告」です。すでに市庁舎や区役所においては、広告を設置する事などで、経費を得たり、必要な物品を供給してもらうなどの取り組みが進められていました。しかし、今回、対象としていたのは市庁舎の3階と4階の廊下です。そこに広告を単純に広告を掲示するという事も現実的ではありません。その中で生まれたのが、この取り組み自体をPRするいくつかの取り組みとあわせて「横浜市広告事業マッチングシステム」として展開し、企業の協力を得て実現することでした。（実はこのパネルの掲示もその一つです）

また、当初は、廊下の塗装だけができればよいと考えていましたが、それだけでは効果が少ないことがわかりました。やはり、廊下を明るくするには、照明の照度をあげる必要があります。検討の結果、消費電力の少ない蛍光灯型LEDランプを利用するという発想にたどり着き、塗装とあわせてプランがまとまりました。

プランの実現性について調査をし現実的であることが確認できたので、庁舎の管理部門や、広告事業の担当部門等多くの部門と調整をした結果、「廊下の塗装」「照明の蛍光灯型LEDランプ化」の2つの方向に進めることが決まりました。

そしてこの取組で是非実現したいことがありました。それは、この取り組みにできるだけ多くの「職員」の参加と理解を得ることでした。そこで、議論を重ねた結果、塗装作業について総務局の職員のボランティアを募ることとしました。最終的には約60名の参加を得ることができました。



■ 実現に向けて ■ ■ ■ ■

実際にプランがまとまったので、「横浜市広告事業マッチングシステム」を活用して協力企業を公募しました。協力していただける企業が名乗りをあげてくれるのが心配でしたが、塗装については「株式会社塗装職人（横浜市保土ヶ谷区）」LED照明については「株式会社シスコ（横浜市金沢区）」が名乗りを上げてくれました。

いずれも横浜市内の企業であり、プロジェクトの主旨をよく理解した上での参加でした。これらの企業の協力なくしては、今回のプロジェクトの成功はありませんでした。きめ細かなフォローと誠意を持った対応には本当に感謝しています。



■ 取り組みを振り返ると ■ ■ ■ ■

今回のように、職員が庁舎の塗装をボランティアで行うというのは、全国的にもほとんど行われていない取り組みだと思われます。いろいろな意見があると思いますが、塗装を終えた翌日「わあっ、なんか、廊下が明るくなったねっ!!」という言葉や、塗装に参加した人が、天井や壁に目をやりながらニコッと廊下を歩いているのを見て、やってみて本当によかったと思います。

そしてボランティアに参加していただいた職員の皆さん、実現を支えてくれた職員の皆さん、この取り組みに賛同して協力していただいた企業の皆さん、全員に改めてお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。